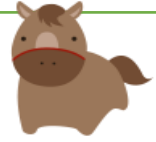


開田小学校だより



令和4年9月30日（金） 文責：北原 健吉



9月24日（土） 校内運動会

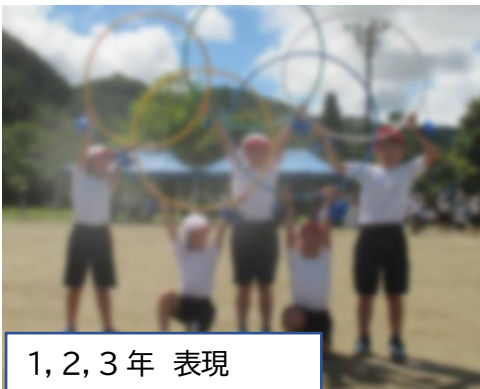
3年ぶりの木曾馬との競走



大玉転がし



来入児 旗拾い



1, 2, 3年 表現



4, 5, 6年 組体操

9月24日（土）に校内運動会を実施しました。（23日を予定していましたが悪天候のため、1日延期しました）台風がまだ近くにいましたが、秋晴れの中実施できました。また今年は新型コロナ対策を十分行った上で、地域の方もお招きすることができました。合わせて3年ぶりとなる木曾馬との競走も行うことができました。以前は希望者全員が走る

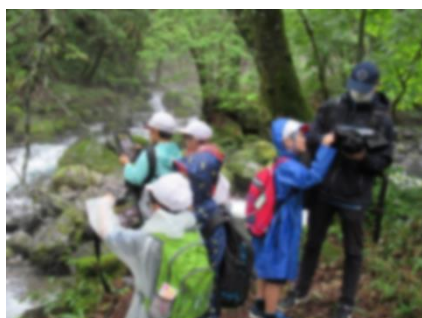
ことができましたが、今年は6年生のみに参加者を限定させていただきました。来年以降も続けていけたらいいと思います。(中川さんからは、参加者記念品として木曾馬「小夏」さんの缶バッチまで準備いただきました。感謝)

低学年の表現ではフラフープを用いて、跳んだり跳ねたり、音楽に合わせてグラウンド全体を使って行いました。高学年の組体操では、開田高原の四季をテーマに力を合わせて行うことができました。

今年の運動会のテーマ「精一杯」をどの場面でも感じることができました。それを支えていただいたのは、保護者の皆様のご協力と、運動会に向けて地域の草刈ボランティア方のご協力のおかげです。本当にありがとうございました。

4年生 ふるさとCMづくり

4年生が、長野朝日放送の「ふるさとCM大賞 NAGANO」に開田高原の魅力を伝えるCMをつくって応募しました。木曾ケーブルテレビさんやALTのトム先生のお力を借りました。たった30秒の中に、開田高原の魅力がぎゅっと詰まった、美しいCMができあがりました。テレビでも放映されると思います。地域の皆さんにぜひ見ていただきたい作品です。4年生はこの後もさらなるCMづくりに挑戦します。



4年生のナレーションに、美しい開田の風景が流れます。お楽しみに。

9月27日(火) 5年生 稲刈り&はざかけ



稲刈り。鎌で刈るのは大変です…



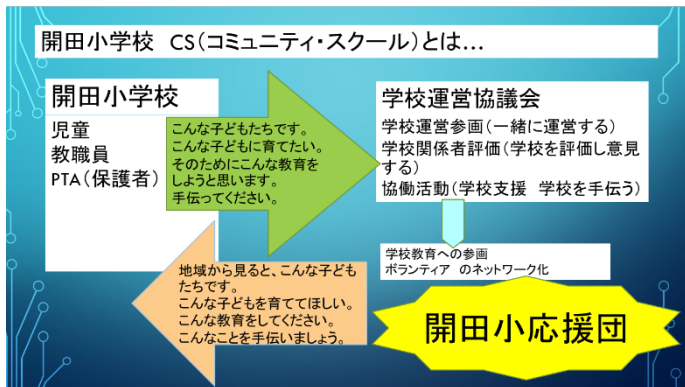
開田の「はざ」はなぜ高い？理由を教えてください。

9月27日(火)に5年生で稲刈りとはざかけを行いました。雨も心配されましたが、おかげさまで無事行うことができました。保護者の方、地域の方、こども園の皆さんの応援を受けて昔ながらの手刈りも体験、5把でわらで縛る体験をした5年生。稲刈り機が刈りながらひもで縛っていくその速さに「機械ってすごい」と声が聞こえてきました。機械がない頃のことを考えるとその大変さも実感できたのではないのでしょうか。はざかけもみんな交代しながら体験しました。秋空の下、体を動かした後のお茶はおいしかったです。

9月24日（土） 開田小応援団お茶なし茶話会

運動会の後には、開田小学校応援団の方に集まっていただき、顔合わせの懇談会を行いました。本当は、お菓子を囲んで、お茶を飲みながら、運動会の感想などをお聞きしたかったのですが、コロナ予防の「お茶なし」の短時間の会となりました。

校長先生より、開田小学校の抱えている課題や、学校経営の方針をスライドを使って伝え、集まってくださった方には、「どんな子どもになってもらいたいか」を画用紙に書いて自己紹介をしてもらいました。



どのような学校を目指しているか

- ・地域と共につくる学校 地域の人が集まる学校。
- ・「どんな子どもを育てるか」を学校と地域が共有し 開田の子どもを開田の地域全体で育てる。
- ・開田の自然、文化、伝統を、学び、保存し、後世に伝える 地域コミュニティの核としての学校。
- ・子どもだけでなく、子どもと大人が共に学ぶ場、多世代交流の場。

コミュニティスクールとは...

「どんな学校を目指しているか」



「どんな子どもに育ててほしいか」

聞いてください「開田小学校の課題」

- ・子どもの数が減少している。・複式学級が今後生まれる。
- ・バス通学。道草がない。自由遊びの時間が少ない。
- ・広い敷地 草取りが追いつかない。畑、田んぼやりきれない。
- ・「素直で いい子」すぎる?? 自己主張が弱い??
- ・人間関係が長く固定化する。多様な人との人間関係をつくりたい。
- ・この地を知らない先生、忙しすぎる先生。開田科(総合的な学習の時間)で地域の力をお借りしたい。

「聞いてください。開田小学校の課題」

「こども時代を思い切り心と体をつかって楽しんで生きてほしい」「人も自分もちがう個性をみとめあう」「地域のことを知り、未来につなげてもらいたい」「自分のやりたいことを、開田でできる人」...etc など、学校を応援してくださる方々の熱い思いを知りました。次回は地域と学校で何ができるかを話し合いたいと思っています。

時代は大きく変化し、子どもたちの未来が心配です(もちろん、私たち大人の未来も)。しかし、開田高原の素晴らしさと、「子どもは地域の宝」と思う人の心は変わりません。この開田の地で、未来を担う子どもたちがのびのびと成長し、みんなが幸せな社会のけん引者となれるよう、どうぞお力をお貸しください。

自然を好きで 開田で生活して 行けるように

ふるさと愛する 元気な子

好奇心 探求心 ふうせいな 考える力のある子に育て ほしい。

元気で 一生懸命勉強 して下さい

26名の方が集まってくださいました。誰だって「開田小応援団」です。枠はありません。学校でお待ちしています。

(赤川地区)

元気に挨拶が出来る子に育て ほしい。

9月28日（水）ジャガイモをいただきました

春の遠足低学年遠足で大屋を歩いていると、農作業をしている方にお会いしました。「開田小学校今何人いるの？」などの話からすっかりおしゃべりに花が咲き、「ジャガイモ取れたら学校へ持って行くよ」と言われました。すっかり忘れていたところ、たーくさんのジャガイモが学校に届きました。私のおしゃべり好きも、良いことがあると思えました。給食でいただきます。巾下さん、鬼頭さん、ありがとうございました。



校長室だより R4.9月 林 久美

めざせ!ユーチューバー



校長講話では、3回にわたって「木曾馬に守られてきた開田高原」という題で、開田の自然や文化と木曾馬とのかかわりについて子供たちに話をしています。今年の夏は、子供たちに自由研究を勧めましたが、これはいわば私の「自由研究」。開田高原にこんなにもいろいろな花が咲くのも、たくさんの虫が来るのも、昔の家が美しく文化財とまで言える風景をつくっているのも、開田高原が長く木曾馬を飼っていたことと深いつながりがあります。自分の知った（ことで感動的な）ことを人に聞いてもらいたいのは人の常ではないでしょうか。その点、教員は観客がすぐに揃います。ありがたい仕事です。

話は変わって、運動会が終わりました。運動会の練習を見に行くことは、私の人生に未だかつてないほどの歓喜の歴史を刻みました。「こうちょうせんせい、見ててね」と言いながら練習に出かけていく子どもたち。練習の間に目が合うと「ちゃんと見ててよ」とばかりにニッコリ微笑んでくれます。終わると「こうちょうせんせい、見てた？」と聞くんです。ずっと中学校の教員だった私にとって『がんばるから見ていてよ』という子供の言葉にはびっくり。こんな私に「見ててね」と言ってくれるのです！（涙）

子供も高学年になると、「見ててね」なんて言ってくれません。けれど、きっと、その心は「私はこんなにかんがっている。見ていてください。」と言うものではないでしょうか。それを難しい言葉で言うと「自己表現」であり「自己実現」と言うのだと思います。そして、がんばる自分を自覚することだけでなく、それを見ていてくれる人がいて、自分が認められていることを知るのでしょう。そうして、子供は「自己肯定感」や「自尊感情」が育っていくのだと思います。私が、地域の方々に学校に来て子供を見てほしいというのもこれが理由です。地域の皆さんの眼差しが子供の成長の大きな力となるのです。

「自己肯定感が低い子供が増えている」と言われることがあります。子供のなりたい職業の最上位にユーチューバーが挙がる時代。考えてみればユーチューバーは、「見てよ。自分!!」のかたまりの人たちです。好きなことがあり、やりたいことがあり、それを多くの人に発信して生きている人たち。子供たちがずっと、好きなことがあり、やりたいことがあり、求めるものがあり、がんばる自分をたくさんの人に「見て!」と発信できるユーチューバーのような大人になってくれるといいなあ。高度な情報モラルやICT技術も持っていなければなれませんね。

私もユーチューブチャンネルを持とうかしら…。チャンネル名は『木曾馬に守られた開田高原』（ICT 機器に弱い私はたぶん無理でしょう…。((+_+))